

令和 5 年 3 月 13 日

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（避難生活担当） 殿

都道府県名 市町村名 愛知県岡崎市

個別避難計画作成モデル事業（市町村事業）最終報告書

令和 4 年度【内閣府事業】避難行動要支援者に係る個別避難計画の作成の推進において、モデル事業（市町村事業）の実施にあたり、最終報告書を提出します。

【市町村情報、事業概要】

都道府県名 市町村名	愛知県岡崎市			
所在地	〒444-8601 愛知県岡崎市十王町二丁目 9 番地			
担当部局連絡先	福祉部ふくし相談課			
連携部局連絡先	市民安全部防災課			
事業概要	都道府県と一体的に行う事業で	ある	ない	○
	<p>個別避難計画の作成にあたり、優先的に作成する対象者を定め、市役所の防災部局及び福祉専門職、地域住民等を交えて、計画作成のスキームを確立する。</p> <p>スキームの作成には、モデル地区を数地区選定し、地域特性に応じた作成方法を、モデル地区以外に示すこととし、可能な限り、介護保険法の地域ケア会議や社会福祉法支援会議といった、既存の会議体を活用することで、多くの関係者を巻き込むよう工夫する。</p>			
備考				

※本様式は、10月20日時点で御提出いただいた「様式 1 - 1 個別避難計画作成モデル事業（市町村事業）中間報告書」の内容と基本的に同様のものです。内容について更新等の必要がない場合、様式 1 - 1 と同じ内容をそのまま記載いただいて差し支えありません。

※記載内容を補足する資料があれば、必要に応じて添付してください。

※上記項目について、必要に応じ参考資料や補足資料を添付して差し支えありません。参考資料や補足資料は PowerPoint など任意の様式で可とします。（その場合は、項目の欄に参考資料が添付されていることを記載してください）

※任意の様式を使用する場合も、用紙サイズは A 4 判としてください。

※連絡先、担当者に変更があり、担当者名簿に変更が必要な場合、その旨を備考欄に併記してください。

市町村の事業概要等に関する取組の実施結果】 (愛知県 岡崎市)

記載項目名	令和4年度末時点の状況
【1】 市町村事業名	個別避難計画作成推進事業
事業概要	避難行動要支援者と、平時から関係する主体が連携して、個別避難計画の作成や避難の介助を行えるよう、既存の会議体を活用しながら、より多くの支援実施者が関わることのできる支援プラットフォームを構築し、継続性のある計画作成や避難の介助を行った。
【2】 事業実施体制 庁内の連携体制	防災課（災害リスクの周知）、地域福祉課（避難行動要支援者制度）、ふくし相談課（個別避難計画作成）、障がい福祉課（障がい者支援・団体関係）、長寿課（高齢者支援・団体関係）、消防本部総務課（消防団関係）と複数回にわたり打合せを実施し、進め方や様式の変更について協議した。
【3】 事業実施体制 庁外との連携体制	・防災担当委員、地域包括支援センター職員、ケアマネジャー、民生委員、消防団、防災防犯協会（自治会）、学区福祉委員
【4】 モデル事業の実施 内容、実施方法	実施内容：土砂災害や河川浸水のリスクが想定される地域から12か所のモデル地区を選定し、計画作成を行うとともに、岡崎肢体不自由児・者父母の会と協働して作成を進め、モデル地区内の多くの避難支援等実施者を巻き込んで、個別避難計画の作成を進めた。 また、避難行動要支援者への支援をはじめとする共助の意識を、全市的に高めるため、9月28日にワークショップを開催した。
【5】 アピールポイント	包括マネジメント会議や学区福祉委員会、地域ケア会議など、福祉部門にて既存の会議体は多く存在しており、それらの会議体を活用して、より多くの支援実施者が関わり、継続性のある支援プラットフォームの構築を目指すこととしているが、障がい当事者の中には、自らの症状などを、知られたくないという想いを強く持った方が多く、計画に記載する内容や対象者などを、検討しながら取組を進めた。
【6】 事業による 成果目標	モデル地区を12地区選定し、地域の特色に応じた計画作成のスキームを確立するとともに、特に優先的に作成が必要な障がい者が所属する、岡崎肢体不自由児・者父母の会と協働して作成を進め、令和5年度に全市に展開する。
【7】 事業実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月～7月 地域住民及び福祉専門職に対して制度及びモデル地区説明会の実施 ・ 6月～3月 モデル地区にて、優先的に作成する方の計画作成を開始 ・ 9月28日 個別避難計画ワークショップの開催 ・ 3月 災害時避難行動要支援者制度の説明パンフレット作成 ・ 3月 個人情報の取扱いに関する注意点をまとめた動画作成
【8】 特記事項	

※上記項目について、必要に応じ参考資料や補足資料を添付して差し支えありません。参考資料はPowerPointなど任意の様式で可とします。（その場合は、項目の欄に参考資料が添付されていることを記載してください）

※任意の様式を使用する場合も、用紙サイズはA4判としてください。

※【市町村の事業概要等に関する取組の実施結果】は1ページ以上2ページ程度としてください。

※【2】～【5】については、次の点を記載してください。〔これ（最終報告）までに行った取組（検討したことを含む）、現時点における課題、課題を踏まえた対応の方向性〕

※【2】及び【3】については、第4回ノウハウ共有ミーティングの意見交換会用資料として作成いただいた、「●●市の背景や取組の概要など」を基に記載してください。

応募の要件に関する取組の実施結果 (愛知県 岡崎市)

要件	令和4年度末時点の状況					
(A) 市町村の防災担当や福祉担当等の関係部署が共同して事業を実施する体制があること。	<p>避難行動要支援者制度について、防災部局、福祉部局の所属長が一堂に会する会議を、5月に開催し、計画作成の進め方や様式の共有などを行った。</p> <p>モデル地区を展開する中で、係る部署の担当者と個別に協議を進め、進捗状況や課題を密に共有している。</p>					
(B) 地域の介護・福祉に関する職種団体等、庁外の関係者と連携した取組であること。	<p>年度当初に、民生委員や学区福祉委員、地域包括支援センター職員といった、介護・福祉専門職に対して説明会を実施し、協働して計画作成を行った。</p> <p>また、岡崎市は重層的支援体制整備事業に移行していることから、モデル地区を展開している、地域内の福祉専門職から、災害時避難行動要支援者の日常の状況を聴取しながら、計画作成を進めている。</p>					
	障害のある人の当事者団体や難病の患者会、支援団体等と連携した場合、その団体等の名称	岡崎肢体不自由児・者父母の会				
(C) 個別避難計画を作成する者の優先度を検討し、要支援者の心身の状況に応じた作成プロセスを構築する取組であること。	住民基本台帳人口 R4年6月1日現在 [人数]	避難行動要支援者名簿に記載等されている要支援者 [人数 (対人口比)]	個別避難計画作成の優先度が高い要支援者 [人数 (対人口比)]			
	385,298人	8,671人(2.2%)	725人(0.1%)			
<p>○優先度の考え方の概要</p> <p>障がい者や高齢者のうち、一人では避難することができない、以下の対象者から抽出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要介護度3～5 ・身体障がい者手帳 (体幹1～3、下肢1～2、視覚1～2、呼吸1) ・療育手帳A判定 ・精神障害者保健福祉手帳(1級) <p>○要支援者の心身の状況に応じた作成プロセスの概要</p> <p>避難行動要支援者名簿の登録については、本人(家族)同意を得た方としているが、名簿登録者であっても、個別避難計画の作成を拒む場合があるため、地域の支援者と共に、過去の災害において逃げ遅れた事例や、場合によって、地域住民を危険にさらす場合があるなどの説明を行い、丁寧に作成を進めた。</p>						
(D) 個別避難計画を実際に作成し、訓練など実効性の確保に取り組むこと。	個別避難計画の作成の取組方針	作成件数(実績)		作成件数(予定・見込)		
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		1,171	2,000	2,000	2,000	2,000
<p>○訓練など実効性を確保する取組の概要</p> <p>計画作成後に、実効性を高めるため、訓練等の実施を打診していたが、防災訓練となると、労力が高いイメージがあり、あまり受け入れられなかった。そこで、計画書に定めた、避難施設まで移動する事に限定した「ひなんさんぽ」を提案したところ、複数の地域で実施され、簡易に実効性が確保されると、好評であった。</p>						
個別避難計画の様式を作成する上で留意した事柄。(留意したいと考えている事柄。)	法改正以前から、個別避難計画書の作成に取り組んでいたため、法改正により、計画書に定めるべき事項が不足していた点があった。そのような際に、一から計画書を作り直さなくても、法上の計画書に適合するよう、不足した事項を補足できる様式を作成し、容易に補足できることとした。					

<p>(E) これまでにモデル地区などで先行的に実施した取組を市町村内の広い地域で展開すること。</p>	<p>令和4年度は、市内12箇所でモデル地区を展開しており、培ったノウハウやスキームを共有するため、パンフレットの作成や、動画配信などを予定している。</p>						
<p>(F) 作成の優先度が高い避難行動要支援者の個別避難計画の作成に令和3年度から5年間で取り組むこと。</p>	<p>作成の優先度が高い要支援者の個別避難計画の作成の取組方針</p>	作成件数(実績)		作成件数(予定・見込)			
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
			24	200	200	300	
<p>○5年間でどのようにして優先度の高い人の計画を作成するか(取組の概要)</p> <p>自身で避難することが特に難しいと考えられる、肢体不自由児・者父母の会の会員と協力して、計画作成を進めている。さらに、令和5年度以降は、医療的ケア児・者の計画作成を進めることとしている。</p> <p>地域住民は、疾患を持った方々への接し方や、避難介助する上での留意点などの知識が無いため、パンフレット等を用いて、モデル地区での知見を共有する予定。</p>							

【ステップごとの取組の実施結果】(愛知県 岡崎市)

ステップ		実施結果 ◎,○,△,▲	記載事項	記載欄
1	庁内外における推進体制の整備、個別避難計画の作成・活用方針の検討	◎	課題	個別避難計画作成の重要性を理解すること
			取組内容 (取組方針)	地域住民は、災害対策の重要性には一定の理解を示すが、個別避難計画作成の重要性は、それほど理解が深まっていないため、説明会やワークショップを開催し、理解を深めた
			取組の 成果・結果	自治会長や民生委員、学区福祉委員といった、地域で核となる人材に対して、説明会等を行ったところ、必要性を理解し、計画作成の機運醸成に繋がった
			理由	モデル地区を、5地区程度で想定していたところ、説明会等の実施後に応募が増加し、12地区に展開した
2	計画作成の優先度に基づき対象地区・対象者を選定	○	課題	要介護度や障がい程度に応じて、定量的に優先度を定めたが、症状は人によって違いが大きく、優先度が適さない事例があった
			取組内容 (取組方針)	地域で計画作成を進める中で、臨機応変に優先度を変えることとした
			取組の 成果・結果	方針を示すうえで、市が一義的に優先度を定めたが、その方の状態をよく知る方々が判断し、個別に優先度を設定することで、適切な優先度の設定に繋がった
			理由	傷病程度は人によって様々で、実際に対応しないと、詳細が分からないため
3	福祉や医療関係者等に個別避難計画の意義(目的、制度概要、作成の必要性等)や事例を説明	◎	課題	ハザードや避難情報など、防災に関する知識の不足
			取組内容 (取組方針)	地域で開催する説明会等に、福祉専門職にもお声がけし、防災の知識が得られる環境を提供する
			取組の 成果・結果	福祉専門職が多忙なため、参加できない場合もあったが、参加者からは、継続して声がけて欲しいとの声があった
			理由	福祉専門職が防災を学ぶ機会が少なかったため、これからは頻度を増やすなど、参加しやすい環境づくりが必要
4	避難支援者となる自主防災組織や地区住民に個別避難計画の意義や事例を説明	○	課題	地域に計画作成を促したところ、計画作成に協力することは同意を得るが、避難支援等実施者に選任することは拒む
			取組内容 (取組方針)	避難支援等実施者の役割を明確にしたうえで、役割を分類し、支援する内容を具体的にする。
			取組の 成果・結果	丁寧な説明を行うことで、徐々に理解が得られ始めた
			理由	避難支援等実施者が、不安に思うことを解消でき始めたため
5	市町村における本人の基礎情報の収集、関係者との事前調整等	◎	課題	要支援者が避難生活を行う際に注意する情報の取得
			取組内容 (取組方針)	介護支援連携指導書
			取組の 成果・結果	避難所で生活するにあたり、どの程度の固形物を食することができるのかや、排泄方法などの情報を入手できた
			理由	個々の症状により、流動食やミキサー食しか食べることが出来ない可能性があるため、避難先に必要物品調達の検討をすることができた。
6	市町村、本人・家族、福祉や医療関係者等による個別避難計画の作成	○	課題	本人と避難支援等実施者の認識の擦り合わせ
			取組内容 (取組方針)	計画作成にて、まずは避難支援等実施者で打合せを行い、案を作成した後に、本人に内容を確認してもらっていたが、本人の意向と相違のある点が多かったため、案を作成する打合せの段階から、本人に同席してもらった
			取組の 成果・結果	出来るだけ早いタイミングで、本人と対面することにより、避難支援等実施者が寄り添おうとする気持ちが生まれ、内容

			理由	の濃い計画が作成できた 丁寧な作成方法だと思うが、思ったよりも作成に時間を要したため、より効率的なスキームを考える必要がある
7	作成したら終わりではなく実効性を確保する取組を実施	◎	課題	どのような支援が必要か、イメージが湧かない
			取組内容 (取組方針)	災害時避難行動要支援者の支援において、福祉に携わっていない方々が、有事の際にどのような支援が必要か、イメージ出来なかったため、避難訓練を実施した
			取組の 成果・結果	車椅子利用者が、避難時にどのような点に困るのかや、避難介助時に留意する点などを、身をもって学ぶことができた
			理由	机上で計画を作成するだけでは、実効性を担保できないが、実際に避難行動を行うことで、避難介助に重要なことが理解できた

◎：成果を十分得ることができた

○：一定の成果を得ることができた

△：あまり成果を得ることができなかった

▲：ほとんど成果を得ることができなかった

【事業の類型ごとの取組の実施結果】 (愛知県 岡崎市)

事業の類型	実施結果 ◎、○、△、▲、－ を記載	令和4年度末時点の取組の概要・状況など
(ウ) 難病患者等の医療的ケアを要する方に関するもの	○	岡崎肢体不自由児・者父母の会と協働して計画を作成しており、会員約100名の計画作成を進めている。
(オ) 大学等の有識者等との連携に関するもの	◎	跡見学園女子大学 鍵屋一教授のお力添えをいただきながら、制度周知用のパンフレットの作成や、動画作成を行った。また、計画作成の機運を全市的に向上させるため、ワークショップの講師等をお願いした。
(カ) 避難訓練や更新等の実施などにより、顔の見える関係性を維持し実効性を確保するもの	○	作成した個別避難計画書を基に、避難訓練を実施した他、ケア会議やケース会議といった、既存の会議体を活用し、継続性や実効性を確保している。

◎：成果を十分得ることができた

○：一定の成果を得ることができた

△：あまり成果を得ることができなかった

▲：ほとんど成果を得ることができなかった

－：取り組んでいないもの

【研修会や説明会等の講師等の一覧】

氏名	所属・役職	研修会や説明会等	
		名称	概要
鍵屋 一	跡見学園女子大学・教授	災害避難を考えるワークショップ	基調講演、ワールドカフェ形式の災害エスノグラフィ

【取組に参画している関係者の一覧】

取組の種類	概要(参加者等)	備考(巻き込む工夫など)
個別避難計画の作成に参画した関係者	自主防災組織、民生委員、学区福祉委員、災害ボランティア団体、地域包括支援センター、おかすけ隊(地域住民の有志で結成したボランティア団体)	
地域調整会議	自主防災組織、民生委員、学区福祉委員、災害ボランティア団体、地域包括支援センター	
避難支援等実施者	近隣住民、自主防災組織、民生委員、学区福	

	社委員、おかすけ隊（地域住民の有志で結成したボランティア団体）	
避難支援等関係者	自主防災組織、民生委員、学区福祉委員、災害ボランティア団体、地域包括支援センター、おかすけ隊	
避難訓練への参加者、参加機関や団体等	自主防災組織、民生委員、学区福祉委員、地域包括支援センター、おかすけ隊	
その他		

※第4回ノウハウ共有ミーティングの意見交換会用資料として作成いただいた、「●●市の背景や取組の概要など」を基に記載してください。

【人員の確保状況】

個別避難計画の作成に関する人員体制			
部署名：地域福祉課	専任（名）	常勤：	会計年度任用職員：
	兼任（名）	常勤：2	会計年度任用職員：
部署名：ふくし相談課	専任（名）	常勤：	会計年度任用職員：
	兼任（名）	常勤：1	会計年度任用職員：
部署名：防災課	専任（名）	常勤：	会計年度任用職員：
	兼任（名）	常勤：2	会計年度任用職員：

【予算の確保状況】

個別避難計画の作成に関する予算	
令和3年度決算額	0
令和4年度決算見込額	440,000
令和5年度当初予算額	440,000
特に予算措置なし	
（参考）避難行動要支援者数（人）	

※避難行動要支援者名簿や個別避難計画に関する予算がある場合、予算書の写しを添付してください。（公表されているもの）

【個別避難計画の周知、普及・啓発等のために作成したもの】

媒体の種別	実施内容の種別	概要（タイトル、URLなど）
紙媒体	広報誌	
	チラシ	
紙媒体	ポスター	いざという時の避難
	町内会や自治会などへの回覧物	
紙媒体	リーフレット	「犠牲者ゼロ」は地域力から
	その他	
電子媒体	動画	

広報誌	
SNS	
ウェブサイト	
広報番組	
その他	

【個別避難計画作成の取組のイメージをつかむのに役立つ報道や講演などの動画や資料など】

・明日をまもるナビ「みんなが助かるための個別避難計画」(2022年6月12日 NHK 総合テレビ放送)
<https://www.nhk.or.jp/ashitanavi/article/7224.html>

【参考にした他市町村、関係団体等の取組】

別府市のインクルーシブ防災事業

【個別避難計画1件を作成するのに要した時間等】

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
のべ人数		1,171					
のべ時間		200					